

俳優の水谷八重子氏が「あらえびす文化賞」を受賞

2024年6月10日 授賞式

一般社団法人日本作家クラブ（竹内博理事長）は5月15日、野村胡堂（別の筆名を「あらえびす」）を顕彰する目的で作られた「あらえびす文化賞」の第8回受賞者に水谷八重子氏を選出したと発表しました。

【Web ページ】<https://sakkaclub.or.jp/>

「あらえびす文化賞」について

「あらえびす文化賞」は、大正・昭和を代表する国民的大作家である野村胡堂を顕彰する目的で設立された賞です。野村胡堂は、その生涯の中で、特に江戸の下町を舞台に“目明かし”が活躍する国民文学、捕物小説の一大傑作である『銭形平次捕物控』を著し、戦前・戦後を通じて庶民、大衆を勇気づけてきました。その胡堂のもう一つの顔がペンネーム「あらえびす」として一世を風靡した格調高い音楽評論家。本賞は、こうした胡堂の多様にわたる業績をカバーするために文化全般を対象にしています。

今回の受賞者・水谷八重子氏は、俳優、ジャズ歌手、エッセイストとして日本の芸術・大衆文化の発展に大きく貢献されてきました。また水谷氏は野村胡堂原作の「銭形平次捕物控」との縁も深く、映画「銭形平次捕物控 美人蜘蛛」（1960年）への出演や、舞台では大川橋蔵氏が座長を務めて人気を博した歌舞伎座恒例師走興行での「銭形平次捕物控」（1974年）にも出演しています。

【選考委員長 日本作家クラブ 理事長 竹内博氏 コメント】

テレビ草創期の昭和時代から平成、そして令和へと時代を越えて活動し、最近でも音楽コンサートに出演するなど活躍が続いています。これら芸術文化における多くの功績は「第8回あらえびす文化賞」にふさわしいため今回のご受賞となりました。

参考：「あらえびす文化賞」歴代受賞者

- ◆第1回 2016年（平28）4月24日 吉村卓三（『鳥と卵と巣の大図鑑』等の教養書・啓蒙書の出版による文化活動）、特別賞・舟木一夫（テレビドラマ「銭形平次」テーマ曲を熱唱）
- ◆第2回 2017年（平29）10月6日 笠原章（劇団若獅子30周年および新国劇創設100周年を顕彰）
- ◆第3回 2018年（平31）4月18日 江戸総鎮守 神田明神宮司・大鳥居信史（永年にわたり神田明神の宮司を務め、神田祭や銭形平次の碑建立に貢献した功績）
- ◆第4回 2020年（令2）10月15日 一般財団法人 100万人のクラシックライブ（代表・蓑田秀策。クラシック音楽のコンサートを通じて社会に幅広く普及、伝達）
- ◆第5回 2021年（令3）11月18日 クラリネット奏者・花岡詠二（スウィングジャズの先駆者としてジャズの発展に貢献した）
- ◆第6回 2022年（令4）6月8日 俳優・高橋英樹（映画やテレビドラマでの名演技が国民に夢や希望、勇気を与えた功績）
- ◆第7回 2023年（令5）6月15日 弦 哲也（作曲家の第一人者として楽曲提供数は2500以上にのぼり、歌を通じて国民大衆の心を捉え、癒し、明日を生きる活力に資した功績） 特別賞・影山 亮（明朗時代小説家・山手樹一郎の学術研究）

「日本作家クラブ」とは

日本作家クラブは、創作活動に携わる者たちの職能的な結合体として、広く文化や芸術の振興および会員相互の自己啓発と親睦を図ることを目的に1949年に設立された団体です。初代会長は野村胡堂。草創期の会員には江戸川乱歩、海音寺潮五郎、横溝正史、山手樹一郎、山岡荘八、吉川英治らの錚々たる文豪が名を連ねました。当クラブでは作家の意味を、広い意味での表現者および表現を志す人と捉えています。こうした会員による表現の場として1994年に同人雑誌『文芸』を創刊（年1回刊行、通巻27号）。2012年からは顕彰事業に着手して「野村胡堂文学賞」、2015年に「あらえびす文化賞」を創設。2019年に創立70周年記念事業を展開、今日に至っています。

【「あらえびす文化賞」授賞式概要】

開催日時：2024年6月10日16:00～

開催場所：神田明神（東京都千代田区外神田2丁目16-2）

主催：日本作家クラブ

【会社概要】

社名：一般社団法人 日本作家クラブ

本社所在地：〒170-0003 東京都豊島区駒込1-42-2-203

理事長：竹内博

事業内容：日本の文学、文化に対する振興を目的に、個人の活動に対しての顕彰を行う。また作家や文化人の親睦団体としての機能もある。

設立：1949年

HP：<https://sakkaclub.or.jp/>